

「一般社団法人 Happy Education」の活動を見学しました。

山口市小郡地域交流センターで実施された“子どもを取り巻く大人のアップデート大作戦”の活動を、2024年12月8日（日）に見学しました。



この活動は、学校に行きづらい子ども達についての正しい認識を社会に発信し、地域社会の中で子ども達それぞれの居場所が広がっていくように、大人を対象とした勉強会として開催されているものです。今年度はシリーズ化して5回、山口県内の4市5会場で開催されました。

今回は、その活動の集大成として「多様な学び」をテーマに、総勢38名参加の下、開催されました。

まず初めに、多様な学び方を経験している中学生と高校生3名がパネラーとして、経験談などを語っていただくパネルディスカッションを実施。大人を対象とする会合に子どもが入るスタイルはよくありますが、子どもを中心に据えての開催は初めて参加しました。

\*\*\*プログラム\*\*\*

★パネルディスカッション  
(経験談・将来の夢)

★グループディスカッション  
(パネルディスカッションの感想・追加でお聞きしたい事など)



子ども達の思い、主張に耳を傾けられるよう、「守秘」「尊重」をキーワードにしたり、つい意見したくなる保護者の方はバッテンマークの付いた

マスクをされたりと、運営面での配慮や工夫がなされていました。

パネラー3名の皆さんは、自己紹介をされた後、「多様な学びの環境」や「どんな学校だったら行きやすいか」「大人に伝えたい事」「将来の夢」などについて、項目別に語ってくださいました。最後にご紹介くださった将来の夢では、皆さんキラキラしたまっすぐな目で発表して下さる姿に将来の可能性を感じ頼もしく、応援していきたいと思いました。

<パネラーの3名のご紹介>

◆学校以外での学びを選択し、保護者の方とフリースクールを立ち上げ運営に携わっておられる中学生 R さん。苦手なことは、集団や大きな音。好きなことはものづくりで、小学生の時にブロックに夢中になられたそうです。現在は、オンラインゲームでつながった全国の友達とゲームづくりに取り組んでおられ、海外の方がゲームに参加されることも。また、YouTuber として情報を発信されるなどご活躍中です。来年度は通信制高校への進学が決定しており、将来の夢は、プログラミングを学びゲームクリエイターになること。

◆小学4年生の時に起立性調節障害と診断され1年間不登校の経験をお持ちの中学生 S さん。学校に行かない期間にずっと好きだった歌うことに加えギターを習得、以来弾き語りの動画を SNS に上げて毎日投稿、作詞作曲の楽曲も含まれ、共感を得て現在フォロワーは約8千人、1万人を目指し活動しておられます。また、オペラ歌手の先生について声楽を学んでおられます。ハマっていることは俳句やアニメのスーパー戦隊もの。将来の夢は、音楽を生業にすること。

◆特性を生かして裁縫を極めたい高校生の G さん。2歳半で発達障害と診断。現在特別支援学校に通学中で生徒会長を務めておられ楽しく学校生活を送っておられます。趣味は、アニメ、手芸（ミシンを駆使）、ゲーム、絵を描くことなど多趣味とのこと。イベントで手芸作品を販売されたり自作のキャラクターが公共施設のロゴになったりと、素敵な作品を創作しておられます。将来の夢は、ご自身の手芸作品を販売するお店を持つこと。

パネルディスカッションの後は、休憩をはさんで、経験者3名にも入っていただき、5つのグループに分かれてグループディスカッションが行われました。パネルディスカッションの感想をメンバーで紹介しあい、続いて、聞き足りなかったことや日ごろから疑問に思っていることなど、経験者から更なるご意見やアドバイスなどをいただきながら意見交換し、参加者は、それぞれ有意義な時間を過ごしておられたようです。

私自身、加工されない生の声をお聴きすることで、「多様な学び」の必要性について、理解を深めることができました。また、「相手の立場に立って接すること」「お互いを尊重すること」「良いことはいいねと伝えたり褒め合ったりすること」「自分の価値観を押し付けないフラットな気持ちで接すること」などは、どのような社会・組織でも、どのような立場でも人とかがかわる中でとても大切なことと、改めて、自分を顧みる良い機会にもなりました。

(本郷)

＜パネルディスカッションや質疑応答、グループワークを通して経験者から伺ったお話＞

Q 多様な学びの環境とは？

- 定義づけの無い学び方。どんな学び方でも良い。色々な経験が学びに繋がる。自分はイベント運営で多くのことを学んでいる。
- 客観的ではなくその人が正解(自分に合っている)と思えばそれで良い。答えは十人十色。自分の活動で動画やポスターを制作することもあるが、それ自体学びに繋がっている。やり続けると、いろいろな気づきを得てそこから更に改善すること自体が学びになっている。
- 自分がやりたいこと、やってみたいことなど 自発性が学びに繋がる。

Q 先生や友達がどんなふうにしてくれたら学校に行きやすい？

- 自分のことを理解して話してくれる。自分に気を遣っていないように 自然に振舞ってくれると嬉しいし学校に行きたくなる。
- 学校に遅れて行っても、普通に接してくれるのが嬉しい。  
遅れて登校しても「おはよー」「あつ、来たねー」など。
- 自分の特性を理解して欲しい。「障害持ってるの？」「そうだよ」とラフに話せると良い。理解する側も大変だと思うので、自分から障害があることを話している。
- 価値観を押し付けられないと良い「〇〇があるから絶対来てね」「放課後來れるなら授業も来れるんでしょ」「できるよね」

Q どんな学校になったら行きやすい？

- 同じ経験をした人や、気軽に接してくれる人がいると行きやすい。
- 先生との関係性が重要で、押し付けなくて欲しい。その人の気持ちになって寄り添って欲しい。
- 自分のことを理解した上で話してくれる。

Q 大人に伝えたい事

- 子どもが無理してやっていることに「頑張ってー」と言わないで。
- 不登校の子どもを持つ親も抵抗があると思うが自分自身にも抵抗がある。「学校に行きたいけど、無理」である状況を知ってほしい。行きたい気持ちはあるけど、行けない。行けない時間は、休息の時間、エネルギーチャージの時間で自分にとってはとても大事な時間だった。その間、「行きなさい」とか言わないで欲しい。  
学校に行けなくても、学生らしいことはしたい。行事や文化祭に真剣に取り組んだり、放課後友達と遊んだり、そう思うのは、学校に行っている子どもだけではないことを知って欲しい。
- 医者のことだけでなく、本人の話も聞いて、知って欲しい。
- 褒めて欲しい。褒められると嬉しくてやる気も出て、成長していることが感じられる。  
褒められるのは誰だって嬉しいですね。
- ゲームが子供に悪影響を与えているという大人がいる。ゲームをしていても、いい子もいれば、ゲームをしていなくても悪い子もいる。自分の価値観だけで決めつけないで欲しい。
- 生きているだけで100点で、赤ちゃんの時は何をしても褒められた。なのに、成長するにつれ、大人の価値観で子どもへの押し付けが増大している。
- 世間で当たり前と思われていることを押し付けしないで。一般の人ができることをできないこともある。「何でもできるよね」とよく言われるが、無理なことは「できません」と頑張って断れるようになった。